

禪鞠 坐禪の時、頭に戴る具なり、形丸し、平なるは驛鈴也。

瀬戸 利休所持、太鼓の胴といふあり、百會に出す。

樂燒 ツク子、原叟手造、輪赤五徳黒と一箱ニ入、數五十の内。

同穗屋 碎啄齋好、タシハン内金、彌助作。

同榮螺 了々齋好、赤内金、彌助作、今は了入にも有之。

竹青 白 紹鷗始なり、節合を切、一寸三分なり、元水屋の具なりしを、利休一寸八歩に改め、中節

と上節とを製して、道安と少庵兩人へ贈らる、上に節あるを少庵に送り、中に節あるを道安取られしなり、是よりして席に用ひ來る、爐には中節、風呂には上節と定む、少庵は元伯に傳へ、元伯より加州利長公へ獻せしに、殊の外御秘藏有しとぞ、白竹を棚にも用ゆるは、碎啄齋より始る、判なきも用ゆ。

〔南方錄〕蓋置

穗屋

天子四方拜の時、用玉ふ香爐といへり、さまによりて蓋置に用る時も、殊外賞翫の一ツ物なり、草菴に用たる例なし、袋棚以上に用手前の時、賞翫の置所等秘事口傳。

印 夜學

印の文字よむやうにして柄杓のゑに付てよし、生類杯も同前也、能阿彌已來、臨濟禪師の印を蓋置にて用れしなり、是名物也、手前時賞翫置所、穗屋同前と心得べし、印は草菴にも用ゆ、夜學はなりさまあり、あり、夜學の獅子、東山殿義利御物名物なり。

火卓

爪を上にしても、又は下にしても、用火卓掛の爐、又は風爐に相應せず、釣釜によし。